

2023年2月2日
主の奉獻の祝日

仙台教区兄弟姉妹のみなさま

今年、わたくしは初めて年頭書簡を発表いたしました。書簡では仙台教区の宣教司牧体制の再編成と新たな出発に触れ、今年度、現在の8地区を5地区に縮小し、これらの地区の小教区は、グループ分けして「ブロック」になる予定と書きました。その後、何人かの方が、これについて感想を聞かせてくださったり、お手紙などで、ご意見をくださいました。お寄せくださった反応を大変うれしく思っております。

2020年3月仙台教区司教座が空位になった時、使徒座管理者であった小松神父が8地区を代表する司祭たちと定期的に集まり、教区の宣教司牧に関わることを諮ってまいりました。わたしが着座してから同じ司祭たちと仙台教区で2014年度から導入されてきた「地区制による司祭派遣」を評価してまいりました。神父さま方からの意見では、「地区割り」と「司祭派遣方法」の見直しを望む声が多数ありました。また、司教に叙階されてから、わたくしが教区内のほとんどの小教区を訪問する中で、多くの信徒の方々から寄せられた意見は次のようなものでした。「小教区の相談事や個人的な相談などを地区内のどの司祭に尋ねて良いのか。地区長司祭なのか、担当司祭なのか分からない」といった意見です。これらの意見は、昨年の始めにシノドスのために行った信徒向けのアンケートの結果とも重なります。

このようにして、神父さま方からも、信徒のみなさまからも、わたくしは従来の地区制の改善に対する要望の声を受け取りました。そこで、新しい地区割を導入することで、地区に派遣された司祭の責任の所在をはっきりさせ、信徒の皆さんのとまどいを解消し、小教区運営を担当司祭と共に十全に行えると考えました。

ブロックに派遣された司祭は、そのブロックに関わる課題の相談窓口であり、責任者でもあります。年頭書簡に記したように、責任者である担当司祭が小教区あるいはブロックの集まりの中で、家庭のメンバーと一緒にあって、父である神の導きに信頼し、共に祈りながら、夢や悩み、希望について話し合っていくという期待を改めて表したいと思います。

今回の派遣では、ほとんどのブロックに一人の司祭を送ることで精いっぱいでした。しかし、第一の三八ブロックには2人の司祭を送ることができました。2人の司祭に本来の共同宣教司牧が行われることを願うとともに、今後の司祭派遣で、複数の司祭を特に小教区の多いブロックに派遣できるように希望しています。

この新しい地区割と司祭派遣が神さまの祝福に満ち、小教区でも、ブロックでも、地区においても、わたしたち仙台教区が、心も思いも一つにして神の家族になることを、祈り願っております。

カトリック仙台教区
教区長 ガクタン エドガル

以下に、司祭、小教区への留意点を記します。

- ◇ 各地区の地区長司祭は司教が任命する。地区長司祭は、各地区内の状況を司教に報告する役割と、各地区での地区連絡協議会の調整、地区内司祭のミーティングの調整を行う。
- ◇ 基本的には、地区に派遣される司祭は、地区内で協力し合うが、主日のミサおよび教会運営は、ブロックに派遣された司祭が責任をもって担当する。
- ◇ 主日の典礼は、ミサが最優先となるが、場合によっては、2つの小教区合同で行うミサ、司祭不在の集会祭儀、土曜日のミサなど、ブロック内の小教区信徒とブロック担当司祭で十分に話し合った上で行う。
- ◇ 主日のミサ以外のカトリック施設（例えば、カトリック学校の行事）での司祭の仕事に関しては、地区内の司祭で話し合いの上で担当を決める。
- ◇ コロナ禍も先が見えつつある中で、信徒との語らいの時間や、聖書を読む集い、信仰養成の各種講座などを感染対策を取った上で行う方向へと転じる。
- ◇ この新しい地区割は、2023年5月1日から始まる。新しく、地区およびブロックに派遣される司祭は、5月6日までに引っ越しおよび、引継ぎを済ませ、5月7日の復活節第5主日から新任地でのミサを始める。
- ◇ 各地区内の地区連絡協議会（地区内の各小教区代表信徒と地区に派遣される司祭の協議会）はこれまで通り行うが、今回の新しい地区割によって、新しい地区に変わった幾つかの小教区は、地区内の顔ぶれが変わることを受け入れてほしい。
- ◇ 必要に応じて、ブロックの連絡協議会も立ち上げてほしい。